



火山と人生

「地震雷火事親爺」の筆頭にあげられるだけに、すべての自然現象のうち最も恐ろしいのは地震であることは、万人の認めるところだ。しかし、最も力強く印象的なものとなると、私は躊躇なく「火山活動」をあげる。おそらく多数の読者も同感であろう。

とりわけ、北海道に在住するわれわれに深い印象と大きな影響を与えたのは、有珠山の一九七七年大噴火であった。四年を経た今日なお活動はねばり強く続き、有珠新山はまだその生成を停止するにいたらない。

活動の初期、航空機で上空から噴火口を詳細に観察したとき、洞爺湖温泉街と噴火口とがあまりにも近接しているのに、いまさらのように驚いた。これだけ人の多い小都会が活火山に密接したところは日本のみならず、世界でもあまり例はあるまい。人口密度の高い火山国、日本の宿命といふべきだろう。

強大な破壊力を恐れられている火山はその反面、美しい国土を築

く建設的な力も大きい。時折、海上に姿を現わす火山島の誕生は、人びとに国土拡大の喜びを与える。またわが国の国立公園の大半は火山または火山性のものである。まさに火山こそは環境を設定するものとして、人生に深いかかわりを持ち、その今日的意義は大きい。そのマイナスを減らし、プラスを増すのに何をなすべきか。これは、われわれに問われている大きな問題である。

火山にかかわる研究を続けてこられた方々に登場していただき、それぞれの専門分野から火山の諸相と問題を提起していただいた所にも、まさにここにある。その貴重な提言が、災を転じて福となす上で活用されることが期待される。

なお、本誌は創立以来用いて来た「会誌」の代りに、本号から、「北海道の自然」をタイトルとすることとなった。より広い範囲の方々に読んでいただけることを願ったものである。その希望がかなえられることを切に祈りたい。

(会長)